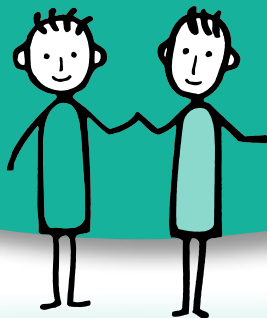


# あなたとわたし

手をつなぎ 足もとしっかり 良い社会

vol.33  
2010.7月下旬号



## パパも育児を楽しもう！

ワーク・ライフ・バランスの取り組みは、身近な家庭から始めてみませんか？

近年、育時期における男性の家事・育児へのかかわりについて、社会全体の関心が高まっています。

今号では、今年3月28日に行われた男性の育児参加へのきっかけづくりの講座「大好き！パパの読み聞かせ～ファザーリングのすすめ」で参加された乙幡さんご夫婦に自分流の生活や育児についてのお話を伺いました。

### 講座概要

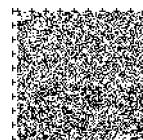
「大好き！パパの読み聞かせ～ファザーリングのすすめ～」

講師：NPO 法人ファザーリングジャパン代表 安藤哲也氏

ファザーリング（fathering）とは父親であることを楽しもうという考え方。長時間労働を強いる会社と、子育てに参加して欲しいと願う妻のプレッシャーに挟まれ、「ワーク・ライフ・バランス」に苦しんでいる父親たちの現状をどうしたら変えられるのか、夫の育児参画が子どもにとってどんなに大切か。里帰り出産の弊害とパートナーシップの在り方、パパスイッチの入れ方など、子育て家族が笑って生きていくために、何をしていくかを伝えていただきました。

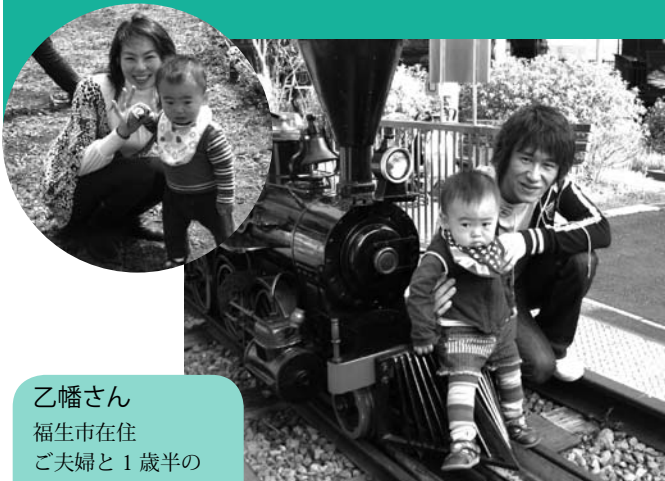


目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の内容を要約した文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。





## 乙幡さんご夫妻と楽しい子育てを考える



乙幡さん  
福生市在住  
ご夫婦と1歳半の  
息子さんの3人家族

### まず、夫と妻の生活のOSのズレを知る

**妻** 講座の募集では、父親対象ということだったので、初めての子どもで不安もあり、私自身も話を聞きたいと、子どもの託児をお願いして二人で参加させてもらいました。

**夫** せっかくの休みの日なのにと思ったのですが、話を聞いてよかった。きれいごとを並べるだけの講座ではなく、押し付けでもない。私たちの場合、夫婦で聞いて良かったと思える内容でした。

講師は、子どもができたらパソコンでいうOS（オペレーションシステム）が変わるという話をされた。妻は妊娠中から最新版にどんどんバージョンアップされ、母親として成長していく。一方、夫は古いまま。妻にしてみればそんな夫が頼りなくなってくる。夫は恋人同士の感覚というか、父親モードになりきれない。まるで自分のことだと思いました。結婚して7年して子どもができた。結婚前も10年ぐらいの付き合いだったので17年間二人だったんです。二人でいるのがあたり前で、この子が産まれても、急には変えられなかったんですよ。

ところが彼女の方では最新バージョンを手に入れてますから、なんでそんな古いシステムでやってるのよ、ってことになるわけです。よくギクシャクしました。このOSの話を書くまで理解できなかった。

**妻** 出産して二か月近く実家において、育児も少しづつ慣れてきました。その間に私の方はすっかりOSが切り替わっていたんですね。その後自宅へ戻ったのですが、彼はもとのまま。そこがわからなくて、なん

# 父親は「子育ての支援」

でできないだろうとイライラしたりしました。でもこの話を伺って、彼に対しては自分も最初そうであったように、できなくて当然、やろうとしてくれる気持ちをくんであげなきゃ、と思うようになりました。

### 家族には家族なりの子育ての仕方がある

●育児はミルクを飲ませたり、オムツを取り替えるだけではなく、一緒に生活することなんですよね。育児をどのように捉えていくのが大切かもしれませんね。

**夫** 実際、洗い物をするとか、洗濯物をたたむとか、最近では休日の朝、散歩に連れていったり。まず、できることからしかできない。妻は専門なので、子どもに接する時間は圧倒的に多い。夫と妻が、五分五分で行こうといっても無理な話です。うちの子はまだ1歳半で、彼女は付きっきりで、目を離せない。いくら可愛くてもストレスになると思う。それを軽減してあげられればいいのかと。

●お仕事は帰りが遅くなったりしますか？

**夫** 波がありますが、遅いときは10時になったりします。講座では、家庭のために時間を調整して定時にあがるようにと話された。しかし、現実には、なかなかそうはいきません。会社が毎日定時で終わってしまうと、会社は大丈夫かなと思ったり、リストラなどで、席がなくなっちゃうのではないかと、残業代が入ってこないのでは大丈夫かなとか。

●それぞれの家庭のあり方ですね。夫が仕事で夜中近くに帰らざるをえないのもひとつの事情でしょうし、そうしないと家庭そのものが成立しなくなっちゃうおそれがある。

**妻** 結婚後もずっと働いていたので、土日は二人でのんびりしていました。子どもができたことで、もう土日も休みがない状態。夫は休みの日はゆっくりしたいという気持ちでいたようですが私は7日間、ずっと働かなきゃいけないのにと、不満に思うこともありました。

愛情を持って育てることで、子どもが素直に成長してくれると聞いてから、彼も愛情を持って遊んでくれるようになってきたと思います。

# ではなく「子育ての共同」をすること

前は、私が言うから、仕方なくオムツを変え、絵本も義務的に読んでいた気がするんです。今は、息子のことを考えて、夫自身も楽しんで育児をするようになってくれました。

**夫** 初めての子なので、お互いに育て方を知らない。以前は二人でストレスを抱えている状態が結構続きましたね。何度かぶつかって、喧嘩の中で、離婚の話まで出ました。そのとき、ちょっと冷静になろうと。どうして結婚したんだっけ、ぐらいに遡った。でも、やっぱり妻のことは好きなので、愛し合って結婚したわけです。改めて初心に戻って、彼女がストレスを抱えないで楽しく生活ができるために、また自分のためにも、理解し協力しあうことが一番幸せだな、と思えました。

どちらかが負担を抱えていると、負の連鎖が起こり、『なんで手伝わないの?』と不機嫌になる、その態度をみて、こっちも不機嫌になり、子どもの相手ができない。どこかでギアを切り替えて、サイクルをいい方に回していかないと。育児や家事の分担、彼女の負担を減らすことで、親子3人、みんな笑顔になれるなとわかりました。

## 夫婦仲が良いと子育てもうまくいく

●一般的に父親が育児に関わりきれない原因はなんだと思いますか？

**夫** 突き詰めていってしまうと、夫婦仲なのかなと思います。根本に夫婦仲が良い、悪いがある。他は全部言い訳ができるレベルかなと思うんです。仕事が忙しいとか、疲れているとか、なんとでも言える。たとえば、夫には家事は一切やらせたくない妻もいると思う。そんな家庭だったらそうやっていけばいいわけです。バランス良くやっていきたい夫婦であれば、

妻の意向をくんであげるなり、話し合っただけでいい。要は夫婦仲ではないでしょうか。

**妻** うちでは、育児のほかに彼の仕事の内容もいろいろ話し合います。彼にしたら、家に帰って仕事でどんなことがあったとか、どういった問題を抱えているとか、いろいろ話してリラックスできると思うのです。それも夫婦仲という面では大事だと思いますし、子育てにも影響してくるような気がします。

●二人の話し合いから理解が生まれますね。その基本にあるのは愛情であり、いままでのお二人の歴史なんだろうね。

結局子育ては、子どもをどう育てていくかはもちろんですが、家庭をどう運営していくかにかかってくるのかもしれないですね

**夫** 子育てということだけに焦点を当ててしまうより、二人だった家族が三人になったんだからこうやっていこう、チームの一員が増えた、という感覚の方がうまく行く気がします。

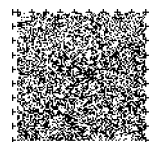
子どもだけに焦点を当てていくと、夫婦間ではお互いに何を考えているかわからない。子どもを通してしか話ができないとか、そういうふうになりがちですね。

それと、自分の子どものころを振り返るんです。親が楽しそうに笑っていると子どもだった自分も本当に楽しかった記憶があるんです。親が不機嫌だと、子どもとしては、顔も見たくないし、近寄らないし、空気が悪くなります。家族みんなが楽しんでいるのが一番いい。夫婦仲が良ければ、あとは全部ついてくるという気がします。

●親御さんの世代の子育てをどう感じますか？

**夫** 親の世代は忙しい時代で、働いて食べられる事が幸せで、父親はとにかく働いて働いて、外で稼いでくるから、母親は家を守ってくれ、っていうスタイル。そう

目の不自由な方への情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」を掲載しています。専用の読み取り装置を使って、今号の4面記事「市からのお知らせ」の文字情報を音声で聞くことができます。専用の読み取り装置は市内の公共施設9か所に設置しています。くわしくは協働推進課へお問合せください。







いう時代であって、それがダメだったとは全然思わないですね。自分もその親に育てられたのだし。ただ、自分たちは安定した時代に入ったから、子育てや家庭の運営の仕方について様々な発想が出てくるのだと思います。親の世代に比べたらゆとりがある、という違いかなと思います。

### 仕事の価値観が変わってきた時代

#### ●今のこの時代をどのように認識していますか。

**夫** 良い意味で欧米化し始めている。家庭やプライベートを大事にすることに目覚めてきているかなと思います。つい最近まで仕事が第一。ワーカホリックといわれる日本人がいた時代もあった。その世代の人たちが定年になって、我々のようなゆとりある社会で育った世代が会社の中心になっていって、ようやく家庭を顧みることができるようになってきました。

むしろそっちの方が、かっこいい感じに見え始めている。会社も仕事ばかりしている人、だらだらと

残業ばかりしている人、前はそれぐらいやって当たり前だった。もう帰っちゃうのか、定時に帰れるなんて余裕だなあという時代から、まだ帰れないのかよ、仕事の能力がないんじゃないかと、悪い方に言われるようになった。処理能力が足りない人が遅くまで仕事している時代。早く仕事を切り上げて、プライベートで家族との時間を大切にするという時代になってきたのかなあと。

家族の最小単位が夫婦なので、正しい方向で夫婦が仲良くできれば、子どもは自然にいい方向に育つだろうなという気がします。

#### ●なにか行政に希望することがありますか？

**妻** 父親の気持ち、また私自身も変わる良い講座だったので、これからも夫婦で参加できる講座などをやってほしい。他の方もぜひ聞いていただきたいですね。

**夫** できるだけ夫婦で参加した方がいいですね。妻ばかり知識が広がっては、夫はますます置いていかれる。

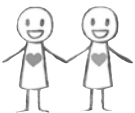
#### ●今日はどうもありがとうございました。

### 市からのお知らせ

#### 福生市男女共同参画行動計画（第4期）策定に向けた審議会を開催しております。

この計画は、男女共同参画社会の形成するために、市が行う施策の基本的方向を明らかにし、施策を総合的かつ計画的に推進するための策定です。審議会では、学識経験者と市民等の代表として、教育関係者、福祉関係者、事業者、公募市民の6名の委員により男女共同参画社会の形成に関する取組みの方針を審議していただきます。

新しい福生市男女共同参画行動計画（第4期）の期間は平成23年度から27年度までの5年間です。



#### ご存知ですか？男女共同参画情報コーナー

輝き市民サポートセンター（福生駅西口プチギャラリー4階）に各区市町村の情報誌や男女共同参画に関する資料を備えています。ご利用ください。

問合せ：輝き市民サポートセンター 電話 042-551-0166

#### 市民編集員募集

「あなたとわたし」の編集員を募集しています。興味のある方は、協働推進課までご連絡ください。

#### ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。

本誌は、市民がつくる市民のための情報誌です。感想をはじめ、特集で取り上げてほしいテーマなど、ご意見・ご要望をお気軽にお寄せください。市ホームページ（トップページ左側の市民のご意見箱）からもお送りいただけます。

#### 広告を募集しています！次号は11月発行予定です(全戸配布)

「あなたとわたし」に掲載する広告を募集しています。

【規格】 4.5センチ×9センチ。各号2枠

【広告料】 1枠：15,000円

※申込み用紙は市のホームページからダウンロードできます。内容により広告掲載できない場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。

【問合せ】 福生市生活環境部協働推進課 TEL 551-1590

**市民編集員** ○柏倉利明 ○輿水和我 ○寺崎敏枝  
○濱原幸恵 ○Saeko.S (イラスト)  
○牧野 霞

**企画編集** NPO法人 NAFA 子育て環境支援センター

#### あなたとわたし vol.33 2010年7月下旬号

発行：福生市 生活環境部 協働推進課

〒197-8501 東京都福生市本町5番地 電話 042-551-1590

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/>